事例報告

看護学生の学園祭における社会人基礎力自己分析の報告

SELF-EVALUATION OF THE BASIC ABILITY TO WORK IN SOCIETY, FOR NURSING STUDENTS BEFORE AND AFTER COLLEGE FESTIVAL

菅　原　尚　美　・　岡　崎　草代夏　・　武　田　美奈子
Naomi SUGAWARA,　Soyoka OKAZAKI,　Minako TAKEDA

キーワード：社会人基礎力、学園祭、看護学生
Key words：the Basic Ability to Work in Society, College Festival, Nursing Students

要　旨

看護学科学生委員会では、課外活動と社会人基礎力の関連性に着目し、学生が自己の社会人基礎力を知ることを目的として、「せいよう祭における社会人基礎力自己分析」を企画し、実施した。対象は看護学科の１、２年生184名で、せいよう祭（以下、学園祭とする）前後に実施したところ、学園祭前後の社会人基礎力の自己分析の結果に変化が見られた。

本企画を実施したことにより、学生は社会人基礎力を意識し自己の現状を知ることができた。学園祭は社会人基礎力育成の場面となる可能性があるが、社会人基礎力の継続的な支援のあり方については今後検討が必要である。

Ⅰ．はじめに

「社会人基礎力」とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱しており、「前に踏み出す力」（アクション）、「考え抜く力」（シンキング）、「チームで働く力」（チームワーク）の３つの能力から構成され、多様な人々と関わる活動の中で身につく力であると言われ、学校や大学における育成が期待されている[1]（表１）。

看護基礎教育においては、社会人基礎力は看護実践に必要な力であるとされ、これまでは臨地実習が社会人基礎力の育成場面とされてきた[2][3][4]。臨地実習では、主体的に臨む姿勢や、患者や看護師をはじめとする多職種とのコミュニケーションやチームワークが必要とされるため、まさしく社

受理日：2019年７月31日

表１：社会人基礎力の【３つの能力】と＜12の能力要素＞

【前に踏み出す力（アクション）】一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力	
＜主体性＞	・物事に進んで取り組む力
	・指示待ちではなく自らやるべきことをみつける力
＜働きかけ力＞	・他人に働きかけ巻き込む力
	・やろうと呼びかけ目的に向かう力
＜実行力＞	・目的を設定し確実に行動する力
	・失敗を恐れず行動に移し粘り強く取り組む力
【考え抜く力（シンキング）】疑問を持ち、考え抜く力	
＜課題発見力＞	・現状を分析し目的や課題を明らかにする力
＜計画力＞	・課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
＜創造力＞	・新しい価値を生み出す力
	・既存の発想にとらわれない力
【チームで働く力（チームワーク）】多様な人々とともに、目標に向けて協力する力	
＜発信力＞	・自分の意見・意思を分かりやすく伝える力
＜傾聴力＞	・相手の意見を丁寧に聴く力
＜柔軟性＞	・意見の違いや立場の違いを理解する力
＜情況把握力＞	・自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
＜規律性＞	・社会のルールや人との約束を守る力
＜ストレスコントロール力＞	・ストレスの発生源に対応する力
	・ポジティブにとらえて肩の力を抜くことができる力

会人基礎力が育成される場と言える。

一方で、社会人基礎力をテーマにしたインタビュー記事で、杉浦は、看護学科が社会人基礎力育成プログラムを導入することの難しさを指摘し、臨地実習だけで社会人基礎力を育成するということではなく、大学在学中あるいは社会人になってからも、学生が継続して意識し続けることが重要であると述べている[5]。本学科の臨地実習は、１年生、２年生でそれぞれ３週間、３年生ではおよそ４か月間であり、特に１、２年生では臨地実習の期間が非常に限られている。このことから、社会人基礎力が育成される場面を臨地実習以外にも見出す必要があると考えた。経済産業省の「社会人基礎力育成の手引き」によると、社会人基礎力の育成に取り組んでいる教育機関では、ゼミ、グループワークやクラブ・サークル活動、アルバイト、文化祭などを、社会人基礎力育成場面として捉えられている[6]。また小磯は、大学生活の中の、授業やゼミ・研究室、インターンシップやボランティア、クラブ・サークル、アルバイト、学園祭など、色々な場面で社会人基礎力が育成されると述べている[7]。本学学園祭は全学行事であり、学科・学年を超えた学生・教職員との協力を必要とし、来場者ら地域の人々との交流が生まれる機会となる。以上のことから、課外活動と社会人基礎力の関連性に着目し、学園祭を育成の機会として取り上げることとした。

箕浦らは「看護職としての社会人基礎力の育て方」の中で、看護学生の社会人基礎力を伸ばして看護職として社会に送り出すためには、まず学生が社会人基礎力の存在を知り、自己の現状に直面し、それらの必要性を理解する必要があると述べている[8]。このように、学生が自らの社会人基礎力の現状を知ることの重要性が報告されていることから、その手立てとして、社会人基礎力自己分析を企画し、実施した。

Ⅱ．目的

本報告の目的は、学園祭における社会人基礎力自己分析を評価し、本企画の実践を振り返ることにより、学生の社会人基礎力を育成するための教育的関わりや支援のあり方を検討することである。

Ⅲ．対象

看護学科の１年生90名と、２年生94名の計184名を対象とした。また、学生の社会人基礎力の自己分析の評価は、下記の日程で実施した。

１．１年生：学園祭前…平成29年10月11日／学園祭後…平成29年11月21日
２．２年生：学園祭前…平成29年10月11日／学園祭後…平成29年11月13日

Ⅳ．方法

経済産業省の「活動記録シート」および「社会人基礎力レベル評価基準表」[1] を参考に、“学園祭における社会人基礎力自己分析シート”（以後、自己分析シートとする）を作成した。自己分析は５段階評価で行った（表２）。

尚、学園祭は、平成29年10月28日に開催され、その実施方法は、３つのキャンパスで学生による実行委員会を立ち上げ、教職員の協力を得て開催される。本学科が所属する五橋キャンパスでは、他に２学科があり、３学科合同の実行委員会が組織される。平成29年度の看護学科の実行委員は、１年生31名と２年生23名の計54名であった。実行委員会は委員長、副委員長らで構成される執行部と、本部、会計、宣伝、模擬店、ステージ、会場設営の６つの係で構成され、執行部と各係のリーダーが中心となって活動した。

また、看護学科では１、２年生合同で、赤ちゃん抱っこ体験や高齢者擬似体験などができる看護体験の企画と運営を行い、１、２年生それぞれが模擬店を出店した。実行委員以外の学生は、看護体験や模擬店の準備と実施・販売、片付けを分担した。

自己分析の結果は、個人が特定されないよう記号化した上で、Microsoft Excel 2010を用いて単純集計を行った。

Ⅴ．倫理的配慮

学生には、実施前に企画の教育的目的と学生の評価には一切影響しないことについて説明した。また、自己分析の結果の使用目的を説明した。自己分析シートは最終的に学生へ返却するため記名式とし、公表する際に個人が特定されないことを口頭および文書で説明した。自己分析シートの提出は任意とし、提出を以って自己分析の結果を使用することへの同意とみなした。

表２：社会人基礎力の自己分析の５段階評価

１	… その力がない、力をつける努力をしていない
２	… その力はないが、努力して身につけようとしている
３	… その力があるが、発揮していない
４	… その力があり発揮している、または発揮するよう努力している
５	… 困難な状況でも、その力を十分に発揮することができる

Ⅵ．結果

回収率は、全体で92.4％、１年生は93.3％、２年生は91.5％であった。

学園祭前と比べ、各学年とも【前に踏み出す力】の＜主体性＞（図１－ａ）、【考え抜く力】の＜課題発見力＞（図２－ａ）、＜計画力＞（図２－ｂ）、【チームで働く力】の＜情況把握力＞（図４－ａ）で、５段階評価の４または５と回答した学生が増える傾向が見られた。一方で、【考え抜く力】の＜創造力＞（図２－ｃ）は、学園祭前後で大きな変化は見られなかった。

クラス全体の概評をグラフ化し、学生と看護学科教員に配付した。学生にとって成長の記録となり、社会人基礎力を普段に、継続的に意識するきっかけとなることを期待した。

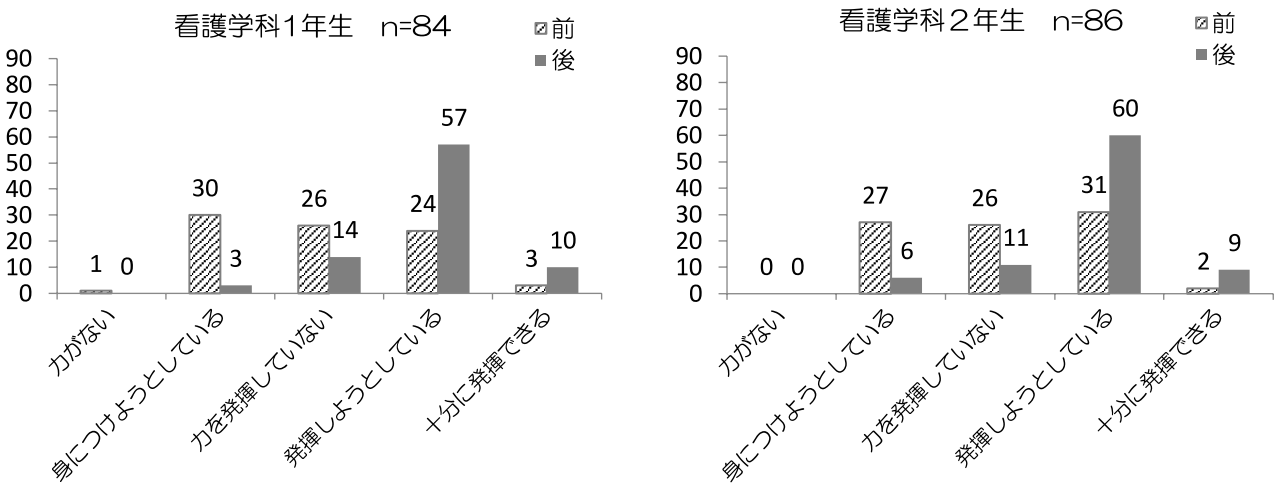

図1-a．主体性

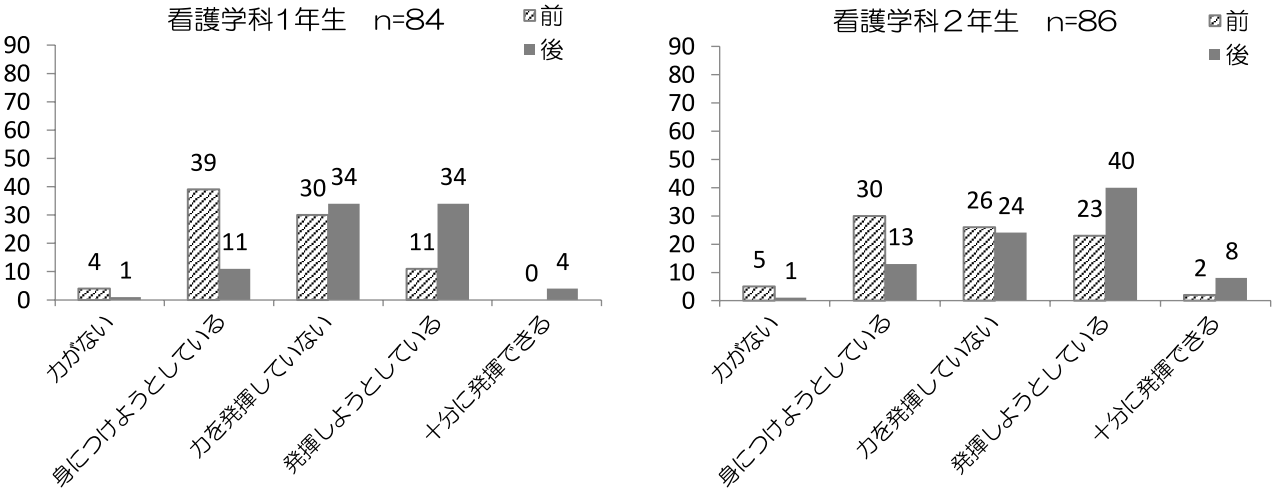

図1-b．働きかけ力

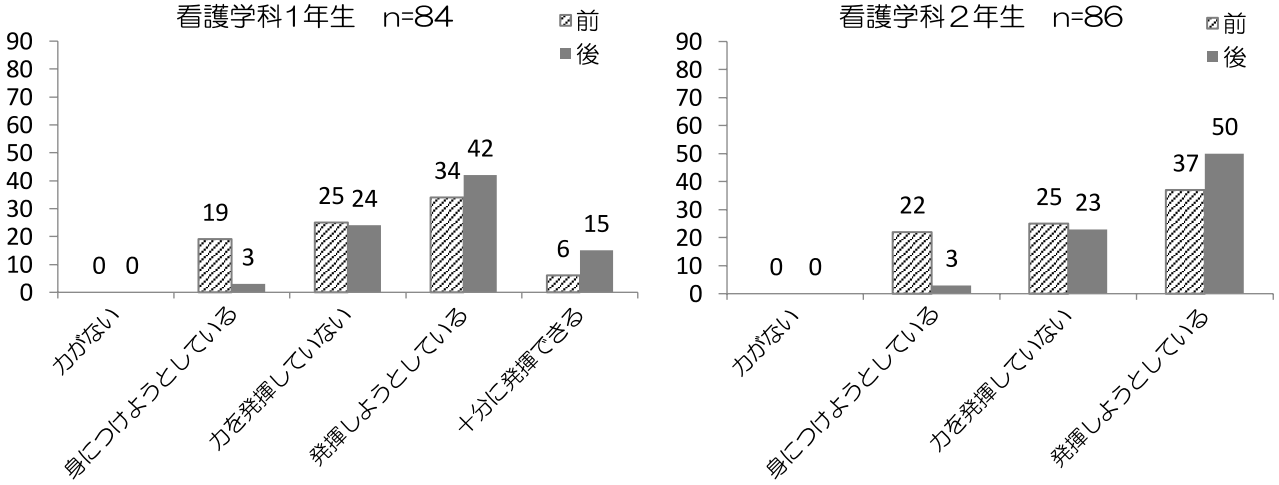

図1-c．実行力

図１：看護学科１，２年生の学園祭前後の主体性，働きかけ力，および実行力の変化

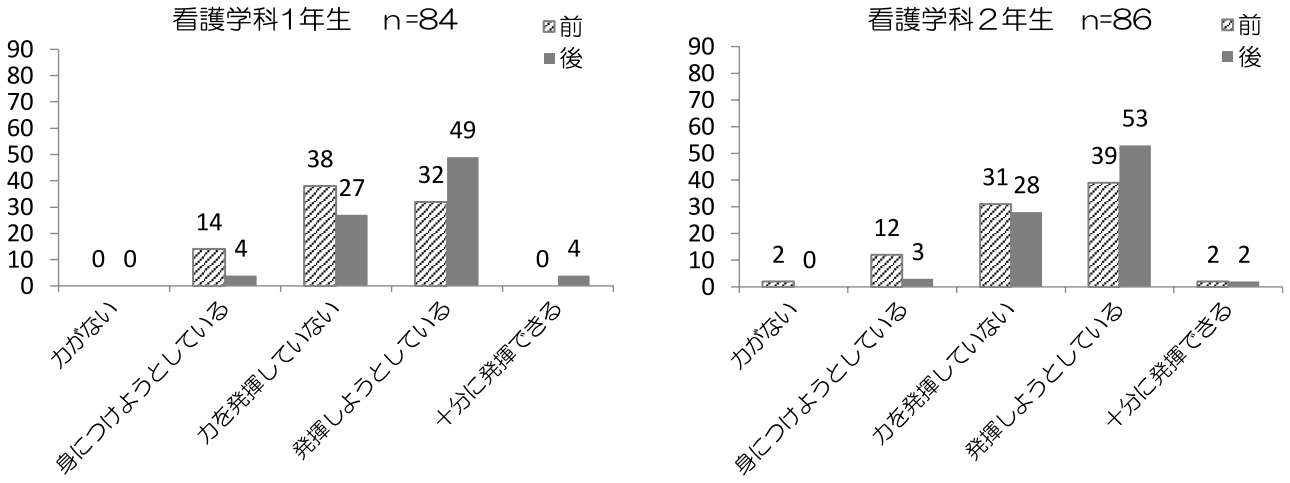

図2-a．課題発見力

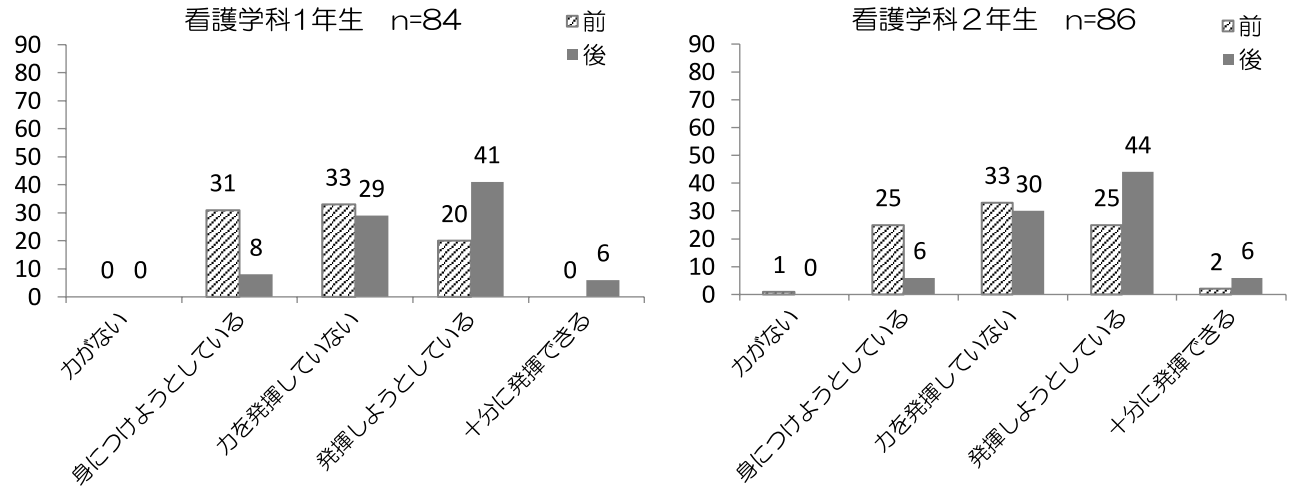

図2-b．計画力

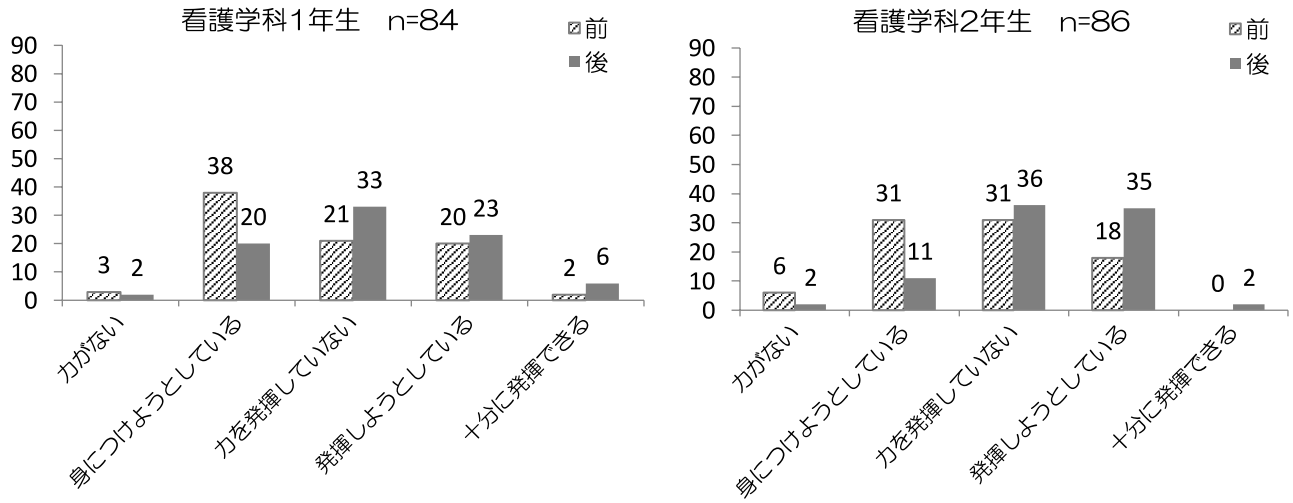

図2-c．創造力

図２：看護学科１，２年生の学園祭前後の課題発見力，計画力，および創造力の変化

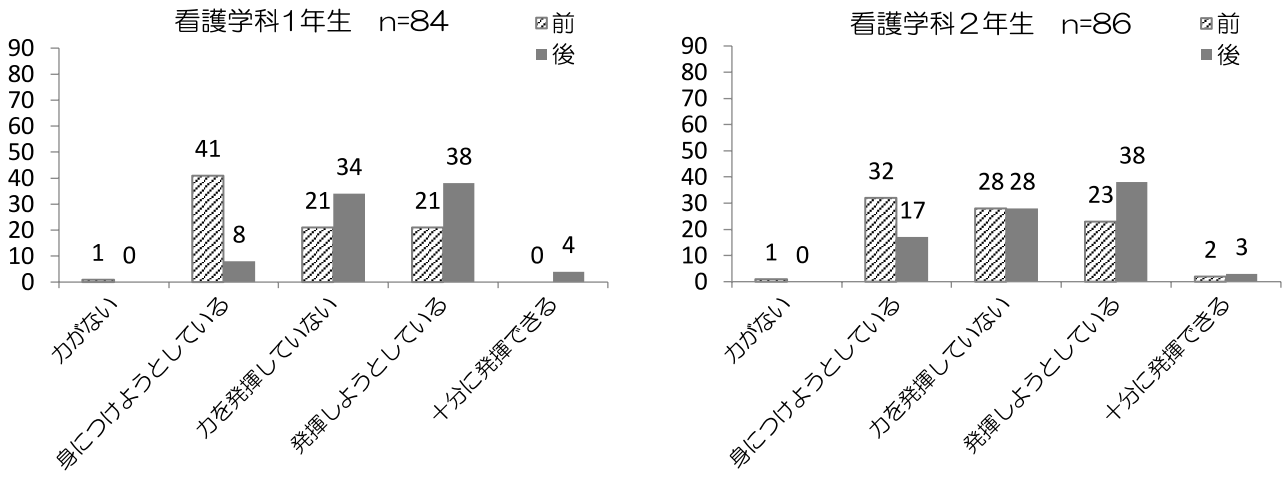

図3-a．発信力

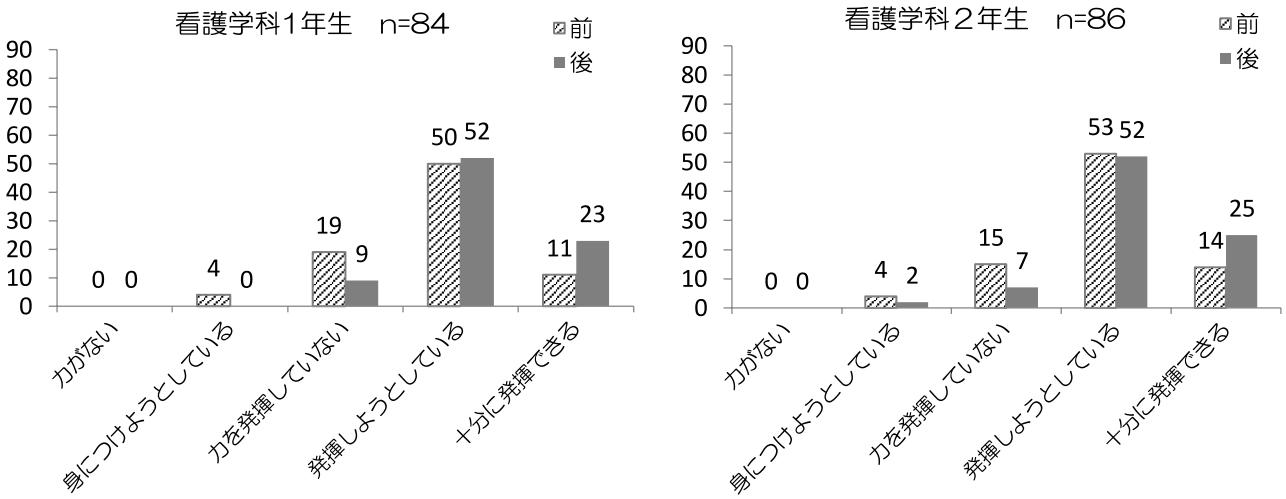

図3-b．傾聴力

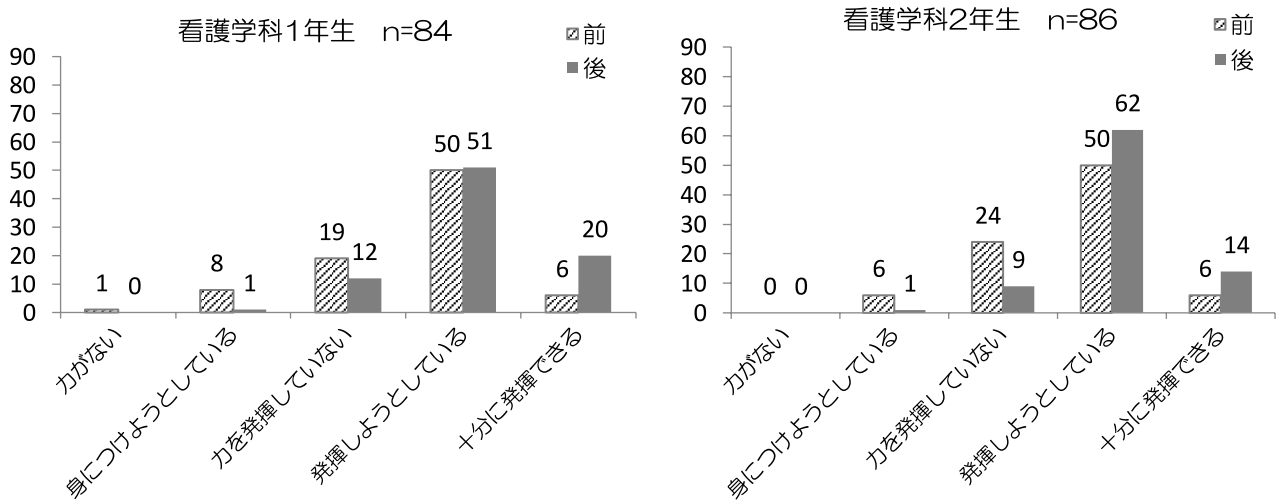

図3-c．柔軟性

図３：看護学科１，２年生の学園祭前後の発信力，傾聴力，および柔軟性の変化

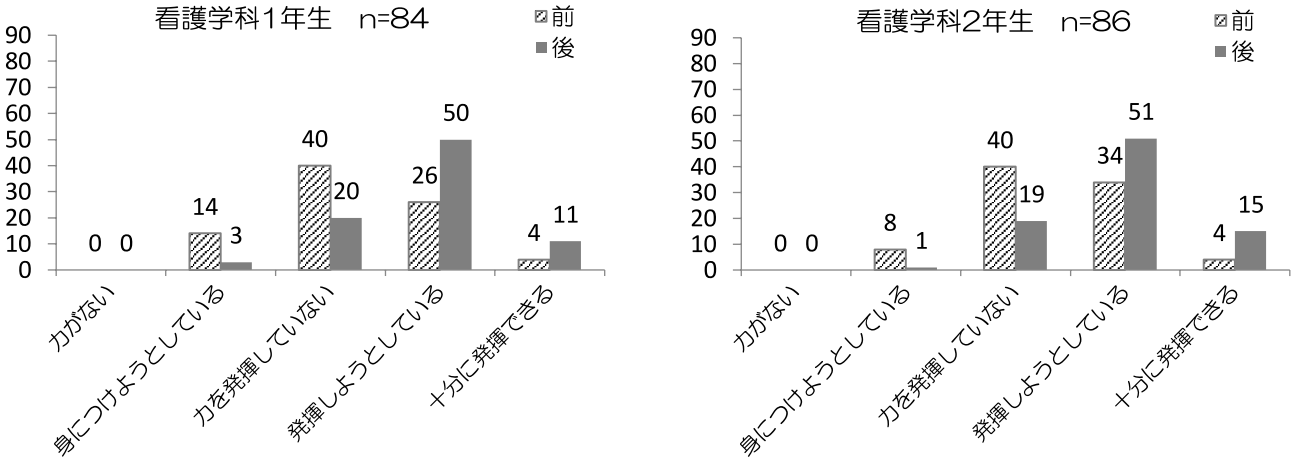

図４-a．情況把握力

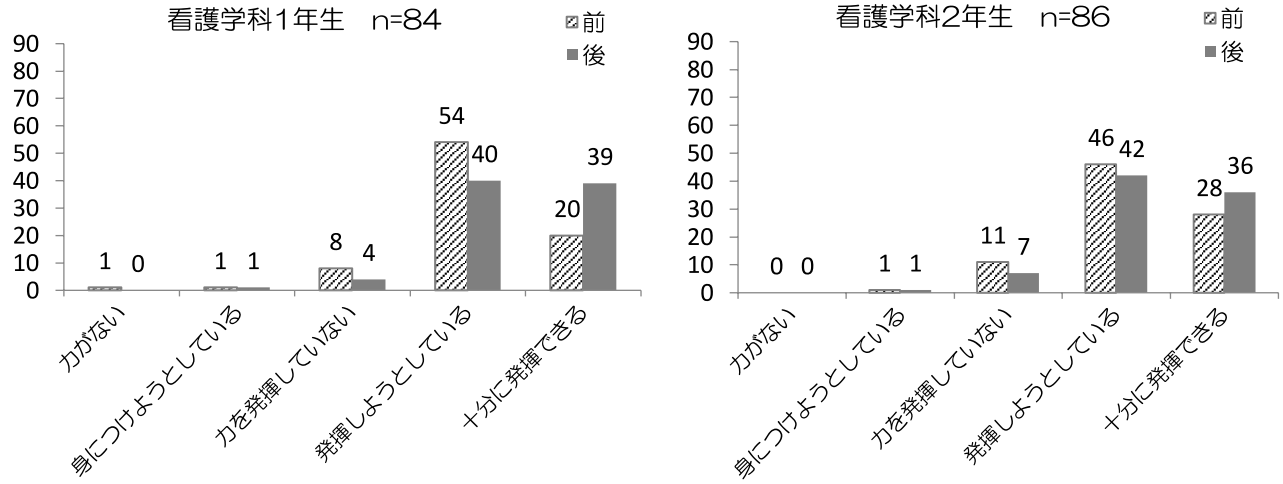

図4-b．規律性

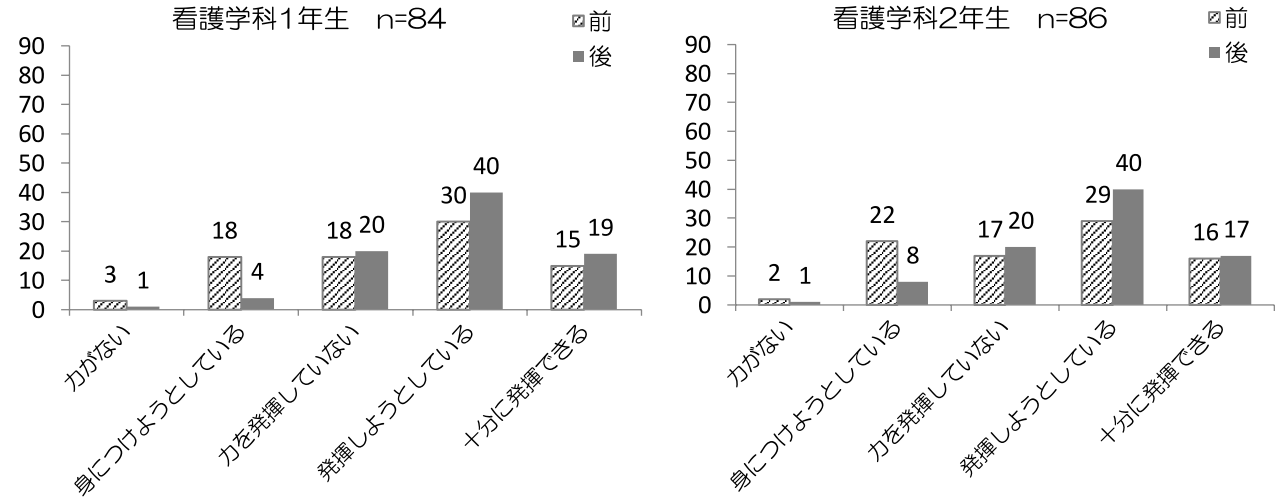

図4-c．ストレスコントロール力

図４：看護学科１，２年生の学園祭前後の情況把握力，規律性，およびストレスコントロール力の変化

Ⅶ. 考察

課外活動と社会人基礎力の関連性に触れ、学園祭が社会人基礎力の育成場面となったのか検証し、本企画を通して社会人基礎力の自己の現状を知るきっかけとなったか考察する。また、今後の社会人基礎力育成の支援のあり方について述べる。

石川らは、看護学生の課外活動と社会人基礎力との関連性について、「大学生時代に課外活動を行っている」学生は、「行っていない」学生に比べ、社会人基礎力が高い結果を示している[9]。また、讃井らは、オープンキャンパスで出会う様々な人との関わりは、学習過程にある看護大学の学生にとっては貴重な生活経験とした上で、正課外活動は、学生が主体的・自主的に学ぶ機会となっており、学生が自主的に学ぶことを支援することにもなると述べている[10]。藤野らは、アルバイト経験や大学祭などで対人関係の困難を経験した学生の方が社会的スキルを高めていると述べている[11]。また藤野らは、臨地実習が終了した看護学科４年生を対象に、学生生活および実習・講義・対人関係に対する認識に関する質問紙調査を実施しており、その結果、対人関係で苦労した状況として、「アルバイト先」「グループワーク」の回答が多い中、「大学祭の係」と回答した学生がいた。その中で、大学祭は、普段の学生生活では関わらない学科の学生や教員との交流の場であり、あらたな人間関係の構築に迫られる状況では困難が生じやすいのだが、大学祭の成功というゴールを他者と共有し、困難を「誰かに相談」して解決するといった経験から、自然と社会的スキルが向上するとしている。

このように、課外活動の経験が学生の主体性や自主性、対人関係において必要な力を高めると考えられている。学園祭における社会人基礎力自己分析の結果のクラス全体の傾向を見ると、学園祭後に【前に踏み出す力】の＜主体性＞、【考え抜く力】の＜課題発見力＞、＜計画力＞、【チームで働く力】の＜情況把握力＞で、「発揮しようとしている」と「十分に発揮できる」と感じた学生が増える傾向が見られた。また、社会人基礎力を「発揮しようとしている」、「十分に発揮できる」と自己分析した学生が、３つの要素全てで増えていることにも注目したい。これは、学園祭が社会人基礎力をバランスよく身につける経験ができる可能性を示していると考える。

学園祭前に自己分析を実施したことで、学生は社会人基礎力を知り、社会人基礎力を意識して学園祭という課外活動に参加したことが、社会人基礎力の変化につながったのではないかと考える。このことから、学園祭が社会人基礎力を育成する場面の一つとなることが示唆された。

箕浦らは、重要なのは、学生が社会から求められている力を社会人基礎力という一つの指標に基づいて確認し、自らを振りかえり、それを身に付けて成長することであると述べている[12]。本企画では、自己分析シートは学生に返却し、自己分析結果をグラフ化（図１，２，３，４）して配付し概評を説明した。返却した自己分析シートを各自が成長記録として携帯することにより、学生が普段、自ら気づいて能力を高めようとする動機付けとなることを期待している。今回の分析結果の有用性については、今後さらに検討したいと考えている。

学園祭は原則、学生全員が参加する行事であるが、その参加方法は様々である。自主的に実行委員会に所属して学科を超えた活動を経験する学生や、看護体験や模擬店でリーダーとなり中心的役割を担う学生もいるが、クラスの大半は、実行委員やリーダーではない。本企画を通して、学園祭が社会人基礎力を育成する場面となりうることが示唆されたことから、多くの学生が意欲を持って自主的に学園祭に取り組めるよう支援していく必要があると考える。また、学園祭以外でもボランティア活動やサークル活動などの課外活動への参加の機会を増やしていくことも、社会人基礎力の育成につながると言える。

看護学科の３年課程で学ぶ、臨地実習や課外活動による経験を通して、社会人基礎力の育成を継続的に支援する方法を、今後とも検討していきた

いと考えている。

Ⅷ. 結論

本企画を実施したことにより、学生は社会人基礎力を意識し自己の現状を知ることができた。学園祭は社会人基礎力育成の場面となる可能性があるが、社会人基礎力の継続的な支援のあり方については今後検討が必要である。

Ⅸ. 文献

1．経済産業省ホームページ　社会人基礎力. http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/（2019.1.30引用）

2．吉武美佐子、椎葉美千代、酒井康江，他：A看護大学卒業生の看護技術および社会人基礎力修得の現状と課題．福岡女学院看護大学紀要．2014；5：1－8.

3．市川裕美子：看護学生の実習前後における社会人基礎力の自己評価．八戸学院短期大学研究紀要．2015；41：39－49.

4．山本十三代、阪上由美、田中結華，他：在宅看護学領域における統合看護学実習前後の「社会人基礎力」の変化と実践場面との関連．摂南大学看護学研究．2017；5：27－36.

5．Guideline，教育改革 ing－社会人基礎力－，河合塾，東京，2010，pp.39.

6．社会人基礎力育成の手引き，朝日新聞出版，東京，2010，pp.94.

7．小磯重隆：社会人基礎力と就業力の育成．21世紀教育フォーラム．2012；7：29－36.

8．箕浦とき子、高橋恵：看護職としての社会人基礎力の育て方，専門性の発揮を支える3つの能力・12の能力要素，（第１版），日本看護協会出版会，東京，2016，pp. 42.

9．石川美智子、板倉朋世、松本明美：看護大学に在籍する学生の課外活動と社会人基礎力との関連性．　獨協医科大学看護学部紀要．2013；7：11－21.

10．讃井真理、田村和恵、平間かなえ，他：看護学生が大学行事に参画する意義と看護教育活動としての効果．広島文化学園大学看護学部紀要．2011；13：22－28.

11．藤野ユリ子、室屋和子、佐藤一美：看護系大学四年生の学生生活や対人関係に関する認識と社会的スキル．産業医科大学雑誌．2005；27：263－272.

12．箕浦とき子、高橋恵：看護職としての社会人基礎力の育て方，専門性の発揮を支える３つの能力・12の能力要素，（第１版），日本看護協会出版会，東京，2016，pp.5.

Ⅹ. 表、図の説明

表１：社会人基礎力の【３つの能力】と＜12の能力要素＞

表２：社会人基礎力の自己分析の5段階評価

図１：看護学科１，２年生の学園祭前後の主体性，働きかけ力，および実行力の変化

図２：看護学科１，２年生の学園祭前後の課題発見力，計画力，および創造力の変化

図３：看護学科１，２年生の学園祭前後の発信力，傾聴力，および柔軟性の変化

図４：看護学科１，２年生の学園祭前後の情況把握力，規律性，およびストレスコントロール力の変化